

# ブドウ（有核・雨除け栽培）の栽培・防除暦（令和3年版）

生産履歴の記帳を怠らぬよう

農薬散布時は飛散防止に努めよう

月	旬	生育相	管理作業	対象病害虫	基幹防除		100% 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日 散布量 記入欄
					FRACコード (殺菌剤)	IRACコード (殺虫剤)			
1		休眠期	発芽促進(CX-10)処理, 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害	罹病枝, 巻づる, せん定枝, 落葉は園外に持ち出す 防風垣を整備し, 園内の通風を良くする				
2				◎晩腐病, 褐斑病 黒とう病	ベフラン液剤25	M7	250倍	400cc	月 日 日
3	中 下	萌芽直前 萌芽期	ビニル被覆 灌水	◎べと病 黒とう病	キノドーフロアブル	M1	600倍	166cc	月 日 日
4	上 中	発芽期 展葉期	芽かき	◎べと病, 褐斑病 晩腐病, 黒とう病	ジマンダイセン水和剤	M3	1,000倍	100g	月 日 日 月 日 日
	下	展葉7~8枚	新梢誘引 フラスター液剤(500倍)散布	◎べと病, 褐斑病 晩腐病, 黒とう病	ジマンダイセン水和剤	M3	1,000倍	100g	
5	上	開花前	新梢誘引	◎灰色かび病, 晩腐病	スイッチ顆粒水和剤	9, 12	2,000倍	50g	月 日 日 月 日 日 月 日 日
	中	開花初期 開花直後	花穂整形	◎灰色かび病 黒とう病	フルーツセイバー	7	1,500倍	66g	
	下	落花期 果粒肥大期	花がら落とし 摘粒	◎チャノキアザミウマ	コルト顆粒水和剤	9B	3,000倍	33g	
6	上	果粒肥大期 (大豆粒期)	摘粒	◎晩腐病, 褐斑病 黒とう病 ◎アザミウマ類, ハマキムシ類	袋掛け前 オンリーワンフロアブル	3	2,000倍	50cc	月 日 日 月 日 日 月 日 日
	中	硬核期	袋掛け 新梢誘引	◎褐斑病 黒とう病 ◎べと病	ディアナWDG	5	5,000倍	20g	
	下		ビニル除去		ビニール除去前 オーシャインフロアブル(7日前まで)	3	2,000倍	50cc	
7	上 中 下	果粒軟化期 着色開始	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	月 日 日 月 日 日
	8	上 中 下	成熟期	収穫始め					
9	下	果粒軟化期	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	月 日 日 月 日 日
		着色開始	新梢管理	◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	
10		成熟期	収穫始め						
11	中	落葉前後	秋肥	◎べと病	ムッシュホルト-DF 又はICホルト-48Q	M1 M1	500倍 30倍	200g 3.3kg	月 日 日
12	上 中	休眠期	土づくり・排水対策 (堆肥, 苦土石灰, 中耕) 縮間伐, 整枝・せん定 巻づる除去						月 日 日

注1) 令和2年10月28日現在の登録内容に基づき記載  
注2) 農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

## 【施肥基準例】

くみあいぶどう配合1号(7-7-7)使用の場合 (10aあたり)

時期	生産量			
	0.5t	1.0t	1.2t	
初秋肥	9月下旬	0.4袋	0.7袋	0.8袋
秋肥	11月中旬	1.7袋	2.8袋	3.4袋
堆肥	12月上旬	完熟牛ふん堆肥500kg		
苦土石灰	12月上旬	100kg		

※収穫後葉色の濃い園では, 初秋肥を施用しない

## 【植物成長調整剤】

薬剤名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布又は塗布	10~20倍	150~200g/10a以内	1回
フラスター液剤(巨峰・施設栽培)	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉7~11枚時(開花始期まで)	散布	500~800倍	100~150g/10a以内	2回

※使用薬剤, 時期, 濃度, 量, 方法については, 品種ごとにラベルを熟読の上使用する

＜農薬登録内容が変更されている場合があるので, 農薬使用前には表示ラベルをしっかりと確認しましょう!＞